

令和5年度 事業報告

自 令和5年 4月 1日

至 令和6年 3月31日

新型コロナ感染症が5類に移行され日常を取り戻しましたが、会員への感染も散発的に発生し、また後半は季節性インフルエンザが流行し、感染症対策に注意しなければならぬ1年でした。定時総会、理事会、各委員会とも、感染症対策を行って従前どおり対面の形式で行うことができました。会議や研修も、必要に応じて対面とオンラインを使い分け、新しい形が定着しつつあります。

シルバー人材センターは、生産年齢人口の減少に伴う人手不足解消の担い手として地域社会に貢献しています。この活動を継続するため、「新規入会者を増やす」と「退会者数を減らす」を車の両輪として会員の拡大と、法令順守と安全就業を大前提とした就業の提供を進めてまいりました。令和5年度末の会員数は130名で前年と同数を維持することができました。契約金額（請負・委託、派遣）は前年度比8.1%の減少となりました。その内訳は、請負・委託のうち、公共（5.6%減）・民間（15.1%減）・家庭（3.9%増）、派遣（5.4%増）となっています。主な原因は適正就業を実現するために、昨年末で複数の契約を打ち切ったため、公共及び民間との契約が昨年に比べ大きく下回ってしまいました。

町と契約を結んでいる介護予防・日常生活支援総合事業は利用者から好評を得ており、通所型サービスである「ミニデイサービス事業」は、44回開催、延べ利用者428人（利用者数12名）、訪問型サービスは、延べ利用者は234人（利用者数7名）となっています。また、福祉有償運送事業も利用希望が増加し、延べ163回運行しました（利用者数19名）。今後も利用の拡大が見込まれますが、短時間での依頼が多いことと、就業会員の高齢化が課題となっています。これらの2つの事業は当センターの特徴的な事業となっているため、引き続き町や関係機関と連携をとり安定した運営を図っていきたいと考えます。

今後、労働力の深刻な不足の補填と高齢者の生涯現役社会の実現のため、センターの役割と期待は高まってくるものと思われませんが、企業の再雇用・定年延長も進んでおり、新規入会者の年齢と会員全体の平均年齢が上がってきている状況です。当センターは、就業を希望する高齢者の要望に応えるべく、適正就業・安全就業を念頭に、

「自主・自立」「共働・共助」を基本理念として健康で働く意欲のある高齢者に臨時的かつ短期的な就業を提供し、高齢者の能力活用、自らの生きがいの充実や社会参加等を指針として、業務のデジタル化も進め今後とも事業活動を行ってまいります。

1. 会員の増強

各種イベントを通しての勧誘活動や会員・知人等からの紹介等により新規入会者を募りました。その結果、令和5年度の新規入会者は10人でした。

- (1) 町等の主催事業において入会チラシを配布
- (2) 広報ふれあい特集号（毎戸配布）に入会募集記事を掲載
- (3) 町広報紙（令和5年10月号）に入会募集記事を掲載
- (4) 入会説明会（随時含む）の開催：参加者12人（うち入会申込者：10人）

会員の状況（令和6年3月31日現在）

性別	入会数	退会数	年度末会員数	平均年齢	男女比率
男性	6	4	78	74.6	60.0%
女性	4	6	52	73.1	40.0%
計	10	10	130	74.4	

2. 就業機会の拡大

就業機会の拡大はシルバー人材センター事業の維持・発展に欠かせない事項です。当センターも会員の能力や希望に応じた仕事が提供できるよう就業機会の拡大を図っていますが、適正就業や安全就業などの面を考えるとなかなか難しい状況です。今後は派遣就業への切り替えやサービス業などの人手不足分野や育児等現役世代を支える分野へも拡大していく必要があると考えます。

就業については、令和5年度の契約金額の合計は64,554,665円で、前年度比で8.1%の減少となりました。減少の要因は、適正就業と安全就業を実現するため、これに合わない契約を打ち切ったためです。

今後とも派遣就業の拡大、公共への就業機会の拡充を図り、多様な働き方を選択できるよう事業展開を進める必要があると考えます。

なお、ふるさと長瀬応援寄付金返礼品の一つである墓地清掃サービスについては、1件ありました。

(1) 請負・委託業務

受注件数 (件)	会員数 (人)	就業実人員 (人)	延べ人員 (人)	契約金額 (円)
476	130	118	10,566	57,083,191
(507)	(130)	(117)	(11,953)	(63,154,599)

(2) 派遣業務

受注件数 (件)		就業実人員 (人)	延べ人員 (人)	契約金額 (円)
12		11	1,053	7,471,474
(12)		(11)	(1,028)	(7,087,795)

※上段：令和5年度 下段（ ）：令和4年度

※請負・委託業務と派遣業務併せた就業実人員：121人

3. 安全就業について

(1) 安全委員会（安全就業推進員）での計画のもと安全就業を推進しました。

月 日	活 動 状 況
7月27日	安全委員会の会議（刈払い機の飛び石事故対策）
8月1日	安全委員会からのお知らせ（注意喚起）
9月22日	安全就業推進大会に参加
12月21日	安全就業研修に参加
1月16日	安全祈願祭
〃	安全就業指導員会議に参加（オンライン）
会報での周知	会報ふれあいに安全就業・交通安全等の記事を掲載（12回）
随 時	職員による安全就業確認

(2) 傷害及び賠償責任事故（保険対象となるもの）

①傷害事故 1件

②賠償責任事故 3件

発生日	作業内容	事故内容	状況
4月19日	清掃	交通事故	運転中に対向車と衝突

7月11日	除草	飛び石	車両のガラスを破損
7月11日	除草	飛び石	車両の塗装が剥離
10月11日	運送	交通事故	路肩の石に接触しバンパーが破損

4. 適正就業の推進

シルバー人材センターは、企業・家庭・官公庁などから業務を受注し、それらを請負・委任、派遣、職業紹介の形態により、臨時的かつ短期的または軽易な就業を希望する高齢者（会員）に働く場として提供しています。（高齢者等の雇用の安定に関する法律第38条）しかしながら、一般企業及び個人等は、センターが関係法令に基づいて請負・委任業務や派遣事業を行っていることに対する認知度がまだまだ低い状況です。

このような中、令和5年度も昨年度に引き続き適正就業ガイドライン（厚生労働省・全国シルバー人材センター事業協会作成）を、入会説明会時、総会時、役員改選後の理事会時での説明のほか、発注者様にも冊子等を活用し周知活動を行いました。

5. 普及啓発の促進

(1) 毎月発行のセンターの広報紙「ふれあい」の中でセンターの活動等の周知に努めました。

(2) センターの広報紙「ふれあい・特集号(4月1日発行)」の中で、センターの活動状況等のほか、請負・委任業務、派遣業務についても周知しました。

(3) ホームページを随時更新し、センターの活動等の周知に努めました。

(4) シルボンヌ Web に会員の活動記事を掲載しました。

6. 組織の運営体制と財政基盤の強化

令和5年4月から事務職員を1名採用し、運営体制を強化しました。また事務費を10%に引き上げ、財政基盤も強化しています。

7. その他

(1) 専門委員会活動報告

①安全委員会（5人）（3. 安全就業について 再掲）

月 日	活 動 状 況
7月27日	安全委員会の会議（刈払い機の飛び石事故対策）
8月1日	安全委員会からのお知らせ（注意喚起）
9月22日	安全就業推進大会に参加
12月21日	安全就業研修に参加
1月16日	安全祈願祭
〃	安全就業指導員会議に参加（オンライン）
会報での周知	会報ふれあいに安全就業・交通安全等の記事を掲載（12回）
随 時	職員による安全就業確認

②総務部会（4人）

月 日	活 動 状 況
1月26日	広報ふれあい特集号の編集会議（第1回）
3月13日	広報ふれあい特集号の編集作業（第2回）

（2）主なボランティア活動

生きがいつくりの充実や社会活動として、次のような活動に参加しました。

月日	内容	参加延人員
8月16日	船玉まつり翌日清掃	20人
年間	花の里の除草・播種等作業	12人

参考

昭和63年9月1日 (1988年)	長瀬町生きがい事業団設立
平成8年10月25日 (1996年)	社団法人長瀬町シルバー人材センター設立（許可）
平成24年4月1日 (2012年)	公益社団法人長瀬町シルバー人材センター移行